



読字 藤原田 親

No. 647

2011/9/15

日中友好新聞

発行所

日本中国友好協会
Y110105 東京都千代田区
有明1-1-1 東京文化会館

日中友好協会
岡山支部

〒710-8258
岡山県東区3-8-30 511
TEL:0861272-3010
郵便番号11所
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部

〒712-8911
倉敷市連島中央1-8-1
(宮地方)
TEL/FAX:0860-446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rzhong.web.infoseek.co.jp>
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp



第57回日本母親大会

「人間らしく生きられる社会をつくる」

湯浅誠さんの講演を聞いて

7月30日、日本母親大会が広島グリーンアリーナで開かれました。参加人数は8500人ということでした。

この日の記念講演は、反貧困ネットワーク事務局長である湯浅誠さんでした。Tシャツ姿に、やさしい声と分かりやすいユーモアを交えた話に、私たち、中年女性達は見る見る湯浅ワールドに入って行きました。

活動の世界に入られたそうです。そして人間らしく生きられる社会、その基本は「作る」という事と、求めるという事。「この事をテーマとして様々な活動をされてこられました。これが、高校中退の子どもたちを支援していききたいそうです。家庭環境や、経済問題、そして今は外国の子どもたちが増えているので、言葉の問題も課題の一つとなつていそうです。



問題は山積みみされているけれど、子ども達をこのまま放つて置いていいのだろうか、仕様がなくて打ち切ると、すべて終わってしまう。なので、例えば、Aは得意だけどBは苦手。10は出来なけれど、3だったら丁寧に出来る。そういう力を発揮できる社会をつくらねばと。日本社会は無いものが多すぎる。もつと元気が出て活気のある社会にして行かねばと。終始、熱い思いが伝

わつてきましたが、はて私にできる事は？まずは笑顔であいさつ「これを基本にしようかなと考えるせられました。

貝吹佳代子



湯浅誠さん

女性の

力強さを感じて

初めての日本母親大会の参加でした。まず、参加者の多さにビックリ！そして、女性の力強さを感じました。

湯浅誠さんの話は、優しい語り口で聞きやすく「人間らしく生きていくためには、一人ひとりが役割をはたせる社会をつくっていく」というのが印象に残りました。

分科会は、碑めぐりと被爆者の方からの証言を聞きました。セットでの学習だったので、核兵器が人間にもたらす

影響（身体的・精神的）について、より知る事ができました。一日も早く核兵器をなくせようように、活動を強めていきたいと改めて思うことができた大会でした。

谷口朋美



9.18は柳条湖事件発生80周年

今から80年前・1931年9月18日、中国東北地区瀋陽で日本軍が鉄道爆破事件を起こし、これを中国側の仕業として中国東北部を占領、かいらい満州国を作りあげ、1937年7月7日の盧溝橋事件を機に中国全土に侵略を拡大し、敗戦まで約15年間も戦争を続けました。

街頭宣伝

9月18日(日)
午前10時30分、
天満屋アリスの広場前
ぜひご参加ください。

私と「中国帰国者」研究

南 誠(梁雪廷)

京都大学名誉研究員 国立民族学博物館外来研究員

② 岡山市での調査

2002年12月、中国残留日

本人孤児による国家賠償訴訟が、東京地方裁判所で提訴されました。これを機に、国家賠償訴訟運動が全国各地に展開されていきました。私は当初から、支援者、京都弁護団の準構成員、そして研究者としてこの

訴訟運動に関わってきました。こうした体験から得た知見を論文にもまとめました。

2008年、国家賠償訴訟運動が一応の終結を迎えることとなりました。しかしこの運動を通じて生まれた全国のネットワークと各地域の組織が、訴訟運動終結後にどう変わっていくのか、各地にいかなる問題が取

り残されているのか。これらの問題意識が常に私の脳裏にありました。また中国帰国者と地域社会との共生関係を築くことも、私の問題関心でありました。これらの課題を探究するために、日本全国各地在住の中国帰国者に関する実地調査を計画しました。

また幸いなことに、私は2011年4月より京都大学文学研究科COE 研究員に就任して、研究計画の一部が京都大学グローバルCOEプログラム 親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点「次世代研究に採択されました。同プログラムから研究経費

を援助して頂いたことで、今回の岡山調査が可能となり、感謝でいっぱいです。

実際岡山を訪れたのは6月17日から19日までの二泊三日でした。この期間を選んだのは、18日に中国帰国者の尊厳を回復する岡山の会「の設立総会が予定されているからです。設立総会に参加するほか、今回の調査をとおして、岡山在住の中国帰国者の概況把握が主な目的でした。いわば予備調査です。にもかかわらず、いろんな方と出会い、驚きの連続でした。

(続く)

台湾旅行 ⑦

谷川浩文



翌日、朝食を済ませ、ロビー前の木彫りの大きなカヤックの前で記念撮影をする。

級友が、僕がカヤックを持ち上げてくれるかのように、遠近法を使って合成写真を取ろうとする。これがまた、級友がとても面白がり、行く先々で、僕にそのようなポーズを取らせる。帰国してから撮った写真を見たら、観光バスを持ち上げていないはずの僕が、バスの前に立つ婦人の尻を笑顔で触っているように映っていたのには、みんな爆笑した。

観光バスに乗り込み、坂をバスがゆつくり下っていくと、さっきまで玄関前で送り出してくれたホテルの従業員が、いつの間にか敷地の端つこまで走って廻り込み、すごく大きな掌の形をしたグローブを片手にはめ、こちらに手を振っている。心からのもてなしに思わず、いつのことになるか分からないが、結婚して夫婦でまた来たいと思うようなようないいホテルであった。

ガイドのジュディーは本当よくしゃべる。高雄へ向かう車中のべつ幕なしにしゃべり続ける。早上好は中国人しか言わない。台湾人は早安という。などなど、為になる話をしてくれるのはいいのだけど、このころである、僕をいじり始めたのは、「いじる」は業界用語と思われるが、要するに話のネタにされることだ。マンガを食べるとあな

たは金城武のように男前になれます。は、まだ序の口。次第に彼女も車中を沸かせようとエスカレートし、僕だけをいじり倒し、こっちも冗談で、在日本、你就被我打死了。って言ってやろうかと級友に言ったら、冗談には受け取られないかもしれないからやめた方がいいと言われ、已むなく溜飲を下げた。

お茶やレイシをいただいたあと、一人で大学の近辺を散歩。コンビニも市場も変わっていないが、売り場の娘さんたちは入れ替わっていて知らない顔ばかり。市内バスで商店街へ出る。辻本さんのおすすめの店でタンタンメンとマントウを食べる。あと、大連書城」というとてもいい（？）とか言いやうのない）広い書店に入って見て回る。辻本さんは唐詩の本を買い、私は別の小さな子ども向け書店で絵本を3冊買った。コーヒ店で冷たいコーヒを飲みながらたくさんおしゃべりをした。彼女が「この夏いちばん印象に残る日」と言い、私も、素晴らしい記念になる日」と満足して別れた。

岡山東商業高等学校

人権教育講演会

生徒の感想文の紹介

2、政府の対応への批判

国が始めた戦争のせいで、国民が振り回されることは、あってはならないと思いましたが。戦時中は現在と違って国民よりも国が尊重されていたとはいえず、国民を外国に置き去りにするなど、考えられないと思いましたが。言葉も地理も、何もわからない国に置き去りされてどんな気分だったか、想像を絶するのですが、自分が同じ立場になつたとしたら、何もできないと思います。

帰国されてからも、政府の十分な対策のせいで充実した生

活が送れなかったことを知って、また国のせいで人が苦しんでいるのだと思いました。現代に生まれた私は、あまり戦争の脅威を感じていませんが、終戦の年から今もずっと戦争の被害は消え去っていないということを実感しました。戦争を、過去のものにとらえず、これからも語り継いでいくものとして、すべての人に受け止めてほしいです。

48歳の時に、大阪中国帰国孤児定着促進センターで4カ月間教育を受けて、岡山での生活を始めたのですが、4カ月で日本語が話せるわけでもないから一番困ったのは病気の時、自分がこんな感じになっているという病状が言えないのが不便だった

そうです。僕がこの立場だったら本当に困るなと思いました。4カ月で外国語を覚えられるかと言われるのも全然覚えられないと思うし、たった4カ月で全然わからない言葉のところで生活は本当に苦労すると思いました。そして高杉さんは、中国と日本は仲の良い関係であってほしい、中国に興味を持ってほしい、中国語を習ってほしいなど、言うていました。高杉さんの第二の故郷は中国ですからこう思うよなと思いました。船の衝突事故などがあつたときは、きつと高杉さんは、悪い関係になつてほしくないと思つたと思います。また政府は孤児をみすてたのだから最低限の責任としてちゃんと賠償をしないとイケないと思つていました。

三年ぶりの大連

中国語クラブの5名で、大連へ4日間の旅。短いので、大連にいる日本人、中国人の友人たちにも知らせずに出かけた。クラブの4名が旅順観光に出かけるとき、私だけ、大連交通大学の前で降りてもらおう。私が数年間、晩春から初夏にかけて、まるで渡り鳥のように短期留学にやつてきた大学だ。

緑陰の構内を歩くと、テニスコートもアカシアの木々も、空気のおいしさも、なつかしい。留学生宿舎の受付のおじさんは、私を覚えていてくれた、ヤアヤア好久不見了！と握手。元氣そうでよかつた。また早く留学に来なさいよ！といつてくれるがもう78歳だからね、身体は健

康でも頭の働きの...と大笑い。岡山から留学している辻本さんの部屋へ行く、幸いなことに彼女は在室だった。まあ！なんで坪井さんが今、ここにいるの、なんで？ なんで？ 突然でこめんね、でも会えてよかつた。こつちの計画もはつきりしてなかつたから連絡しなかつたけど、とにかく会えてよかつた！ふたりで賑やかなこと。

日中友好協会中国語講座の初級班で学んでいた彼女がここへ留学してから3年目になる。彼女は大連での留学生生活がすっかり気に入って、まだまだ帰るつもりはない、という。ペットボトルの下部を鉢がわりに、窓辺にたくさん並べて、夫葉まで栽培している。備品の冷蔵庫は小さいので自分でもう一つ買ったという。

次回の新聞送付作業は9月21日(水)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

葉吹内和
稲貝小竹竹三

大連は三年前と同じように、ごみごみしていて、クレイン車があつちこつちで腕を伸ばしていて、道路は掘り返され、人間がいつぱいで、大声で話しているクラクションがうるさくて...しかし変化もあつた、路面電車の車両は全部ピカピカの最新でエアコンがきいていて快適。街角のスタンドで売っている新聞も留学生会館ホールの自販機のコーヒも2倍に値上げ、ひしひしとインフレの波を感じた。

坪井あき子